

手をつなぐとも

等友

S
60
·
10
·
1生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覺寺
住職
朝倉創



新年の等覺寺本堂内陣

令和4年2月
第111号
責任編集
朝倉 翔

當時このごろ、ことのほかに疫癪えきさいとてひと死去す。これさらに疫癪じょうざうによりてはじめて死するにはあらず。生れはじめしよりして定まれる定業じょうぎょうなり。さのみふかくおどろくまじきことなり。

蓮如上人御文 四帖目九通 「疫癪えきさい」

最近、ことに疫病で人が死んでいます。しかし疫病が原因で死んでいるのではありますせん。(死ぬことは)生まれたからには決まっていることなのです。いまさら大きく驚くことではないでしょう。

住職から一言

二〇二二年もあつという間に一ヶ月過ぎましたね！

皆様にお知らせが二つございます。

昨年八月、長男である謙心が京都の本山東本願寺において、得度式を受式しました。

法名は「釋謙心（しゃくけんしん）」です。今後、合同法要にて袈裟を着た小さいお坊さんがいるかと思いますので、温かく見守っていただきたいと思います。

もう一つのお知らせは、来る二〇二三年は親鸞聖人が御誕生して八百五十年、淨土真宗が開かれて八百年にあたる年として、記念の慶讃法要が本山にて勤まります。（三月二十日～四月二十九日）

等覚寺でも本山への団体参拝ツアーを企画募集する予定でありますので、続報をお待ちください。
(来年にはコロナが落ち着くといいですね！)



本山東本願寺にて

法話紹介

◎人間の不安と安心

緊急事態宣言もようやく明けて、感染者もかなり減ってきました。でも、そのコロナによる不安というのはなかなか晴れないし、強大なものですね。あるお寺のお檀家さんは、ご先祖の何回忌というタイミングでしたが、感染者が多くなため、先延ばししたいとおっしゃつたそうです。その後いざ感染者数が二十人前後となつたら、今度その方がおっしゃつたのは、また増えるかもしれないから、やつぱりもう少し先延ばしにしたいということでした。感染者が増えてるときは増えてる時で不安を覚え、減つたら減つたでその事実よりも、また増えるかもしれないということに不安を覚えてしまう、それが私達人間の姿

なのでしょう。

不安というのは、何から来るかというと、「無知」から来る。無知だからこそ不安に感じることがよく言われるんですね。コロナというのはまさしく未知のウイルス。今まで遭つたこともないし今まで知らなかつた。やはり不安に感じるのは仕方ないんです。こういう構図があるわけですね。皆さんよくテレビや新聞でコロナのいろんな情報をご覧になつてゐると思います。でもどうでしょう、本当に役に立つ情報つてありましたか。今日の感染者は何人だとか、ワクチンの接種率は何パーセントだとか、そんなニュースばっかりで、本当に大事なこと、つまりはこのコロナ禍で私達はどう生きたらいいか、そういうことを話し合うだとか、考える、または教えてくれる、そういう番組とか情報にはなかなか出会えなかつたと思うんですね。本当に大事なことだと思うんですよ。コロナに罹らない

ことも大事だけど、この環境を受け入れ、その上でどう生きるべきかってことですね。そういう深いところを私達は知りたいと思つてゐるはずなのに、なかなかその点に対してもメディアは情報提供できていなかつたんじやないかということを感じました。

◎不安はなくなる？

有名な絵本作家の五味太郎さんのインタビューに僕自身はつとさせられました。コロナ禍において一番いいことをおっしゃつてゐなあと思ったのです。ある新聞記者が五味太郎さんに小学生や幼稚園生に向けたメッセージを聞いたのです。大人でさえ不安を感じてるコロナ禍で、子どもたちはもつと不安に感じているのでないかと。そしたら五味太郎さんはこのようにおっしゃいました。じゃあ一緒に考えましょう、そもそもあなたに聞くけど、コロナ禍の前は不安に思つてることなか

ったの？あなたは本当に安定してたの？今はたまたまコロナというものに不安の眼が全て集中してるだけじゃないの？と。これはすぐ大事だと思いました。今はコロナという強大な敵があつて、それに対してもみんな不安に思つているだけで、これがなくなつたらなくなつたで、多分また普段通りの生活の中でそれがいろんなことに不安を抱えてまた生きしていくわけですよ。だから、コロナがあるなしで私達の生活が良くなるというわけではない。根本の問題は解決しないよつてことだと思うんですね。そのことを五味さんはおつ



五味太郎さんの作品の一部
(絵本館)

しゃっている。さらに続けて、不安だからこそ、この不安があるからこそ、生きてる証拠でしょっておっしゃるんですね。心という漢字は、見ればわかる通り、形が非常に不安定ですね。五味さんの言い方をすると、このバラバラしている姿が私たちの不安定な心とすごくマッチしている。だからこそ、私たち生きているってことを実感できるんじやないか。もし搖るぎない考え方とか言ってる人がいたら、考えの思考停止、イコール死んでるのと同じだよっていうこともおっしゃつてました。コロナ禍で学校や仕事は大分形を変えますよね。リモートワークというものができたりとか、授業も家にいながらリモートで受けれる事ができるようになりました。そんな今だからこそ、今まで当たり前だと思つてやつてきたこと、やらされてきたことが、本当に必要なことだったのか、本当に自分がやりたいことだったのか、そのことを問う大事

なきつかけなんじやないかって五味さんがおっしゃってるわけですね。つまり今は私たち自身が変わつていく大事なチャンスなのです。私たち人間が生きていく上で、不安というものとどう向き合うか。不安をなくそうと思つてもできないのです。

◎安心という生き方

実は「安心」という言葉は仏教から来ていました。仏教では「あんじん」と読みます。どういう意味かというと、不満や不安、後悔がないのが安心した生活ではなく、浄土真宗の親鸞聖人の教えるところによると、私たちは不安とか不満とか後悔をどうしても抱えながら生きてる。それを本当に丸ごと引き受け生きていくのがこの「安心」であるということをおっしゃつてます。不安の反対ではなくて、不安や不満、後悔を全て私達の生き方など引き受けて歩んでいけることを「安

心」ということで表すわけです。これが非常に大事だなと思うんです。だから親鸞聖人ご

自身も、この不安とか、後悔とか、そういうことを常に大切にして生きていたからだ。そして、私たち人間は所詮不安や後悔を抱えて生きていくことしかできない。だから救おうとされている阿弥陀さんが後ろから背中を押してくれるんだから、安心して、命ある限り生きていくこうということを親鸞聖人は、ご自身の生涯を通じて私達に示して下さってるのです。

二〇二一年十月報恩講にて 釋創龍

毎年十一月ごろになると、浅草には華やかな着物姿や羽織袴姿のかわいいお子さんたちをよくお見掛けします。七五三のお参りで浅草神社等に向かわれているのでしょうか。履きなれていな草履をつっかけながら笑顔で歩く姿を見ると、他人ながらもほほえましい気持ちになるものです。

さてそんな七五三ですが、お寺でもお参りできるのをご存じでしたか？あまり知られていませんが、実はお寺でもできるんです。ご本尊にお参りすると同時にお子様の成長をご先祖様にご報告することもできるのです。

そもそも七五三とはどのような風習なのでしょうか。諸説ありますが、もともと平安時代に行われていた、三歳の「髪置き」、五歳

七五三はどうやってる？

の「袴着」、七歳の「帶解き」の儀式が起源であるといわれています。現代と違つて昔は平均寿命もだいぶ短かつたので、子どもの成長というものが特に気になるものであります。そのためこのように子どもの節目に成長を祝い、子どもの長寿と幸福を祈願していました、それが現在にも受け継がれてきたわけです。

それでは神社とお寺の七五三の意味合いにはどのような違いがあるのでしょうか。神社での七五三は先ほど申し上げた通り、これららの子どもの成長を祈願しますが、浄土真宗のお寺では祈願することはありません。祈願するということ 자체はとても素晴らしいことで親の愛にあふれた行為です。ですが、実際はどうでしょうか。私たち人間は煩悩があり、生きている限りはいろいろなことに悩み苦しみ、そして悲しい経験もしなければなりません。それは小さな子どもも同じでしょう。祈願という行為は現実的にいまを生きる上で

悩みや苦しみ、悲しみを取り除くことはできません。そんな私たち人間に常に一緒に寄り添ってくれる存在が仏さま（阿弥陀如来）なのです。阿弥陀如来は私たち人間の本質を知り、その上で皆を平等にお淨土へと救つてくれます。だから私たちは自信をもつて、悩み苦しみながら生きることが、私たちのいのちなんだということを知れるわけです。こうした日々の歩みの支えとなるいのちの教えは、子どもの未来にとってどれほどの力となり支えとなってくれることでしょう。

また、親からしてみれば子どものこれからのみ事を願うということは、七五三の時だけではなく、ずっと尽きない願いであります。あまり良い言い方ではありませんが、私たち人間の願いというのはきりがないのです。だからこそお寺では祈願をすることなく、七五三というご縁に、仏教のいのちの教えにご家

族で触れていただくことによつて、毎日の歩みをより強いものにしていくという意味があります。

ぜひ七五三という行事の意味をあらためてご理解いただいて、お気軽にお寺での七五三という選択肢もご検討いただければ幸いで



備忘録　～法事の準備～

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をして、「家族で法要希望日をお決めになりお早めにお寺へ」連絡ください。

○当日必要なもの

・お布施(「先祖さま合同で実施する場合は、「先祖さま毎に包みを分けて下せば」)

・お花代(本堂にお飾りする)

お花代で、一万円の実費

○「希望によってお持ちください

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影(小形のもの)

○服装は華美でなければ平服でも結構です。

(「参加される方同士でお話しされてお決めください。）

※お寺へお包みいただく表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」や「1」靈前」という言葉は用いません。

備忘録　～お焼香作法～

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出て「お焼香ください」

○お焼香作法

- ・焼香机の前に進み、合掌せずに「本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒(香入れ)の蓋を開けて香盒の右に置きます。
- ・右手でお香を一回、香炉にくべます。(お香を額に頂くことはしません)お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。
- ・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて白席に戻ります。

備忘録　～お葬式について～

○事前の相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆつくり検討する時間がありません。お寺に「連絡いただければ葬儀までの流れなど」不明、「不安な点の」と説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらにでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めをさせていただいているので気にせず「依頼ください。また、可能な方はぜひお寺で「葬儀を。故人が生前」縁のあつた等覚寺の本堂で、あたたかくお「そかな」葬儀をする」ことができます。

○葬儀の布施

「の時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではなく、亡くなつた時を「縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽に「相談ください。」

備忘録　「ご納骨について」

○ご納骨のみはお受けできません

永代供養墓ではなく一般墓地をご利用の場合、浄土真宗の教義に則つて、葬儀式をお勤めしてからのご納骨となります。式のやり方のご希望等ご相談に乗れる部分もありますので、必ず火葬前にご連絡ください。

「ご披露」

等友へのご懇意

加藤伊知郎様　高橋愛子様（順不同）

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っております。

編集後記



こんにちは。翔です。今回は七五三について取り上げてみました。僕のまわりを見ても、やっぱり七五三といえば神社というイメージですね。長男の五歳ということで、七五三のお参りを等覚寺で行つた様子をご紹介させていただきました。やってみて思ったのは、神社でよりも人が少ないのでゆっくり写真が撮れるつてことでした（笑）子どもは自分の想定外の動きをするので、なかなか予定通りに事は進みませんよね。そんな時でもお寺の境内は七五三シーズンの神社に比べればあまり人がいないので心に余裕ができて、あせらずに写真撮影もできました。子どもとゆっくりと過ごす七五三もなかなかいいかもしません。

令和四年行事予定

三月二十一日(月)

彼岸会・永代経

三月十八日

春のお彼岸

七月十三日～十六日

お盆

七月十六日（土）

盂蘭盆會法要

九月二十日

秋のお彼岸

十月二十三日

報恩講

◎お気軽にご参加ください。



※ あくまで予定です。
開催が確定した行事は必ず事前にご案内いたしますので、別途ご確認ください。

令和四年年回表

一周忌
三回忌
七回忌
十三回忌
十七回忌
二十三回忌
二十七回忌
三十二回忌
三十七回忌
四十三回忌
四十七回忌
五十回忌
七十四回忌
七十九回忌
一百回忌

大昭昭昭昭昭平平平平平令令
正和和和和和成成成成成和和
十二三四五六七八十八二年年
二十八十十五五一年年年年
八年八年八年八年八年